

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症とは

気管支炎や肺炎を起こす呼吸器感染症です。

生涯にわたって何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1ヶ月までに半数以上が、2歳までにほぼ100%が感染するとされています。年長児や成人では、鼻水や咳などの軽い風邪程度の症状がみられますが、初めて感染した乳幼児や、慢性呼吸器・心疾患を合併する高齢者は重症化しやすく、高齢者ではインフルエンザと同等の死亡率と言われています。

全国では例年冬期に報告数のピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていました。しかし2011年以降、7月頃から報告数の増加傾向がみられており、奈良県でも同様の傾向があります。また、県内では今年の9月時点で患者の報告数が昨年や一昨年のピーク時を上回っています(右グラフ)。

例年年末まで流行が続いており、注意が必要です。

感染経路

飛まつ感染 感染している人の咳やくしゃみ、また会話をした際に飛び散ったしぶきを吸い込み、感染します。

接触感染 感染している人との直接の濃厚接触や、ウイルスがついている手指や物品(ドアノブ、机、椅子、おもちゃ、コップ等)を触ったりなめたりすることにより間接的に感染します。

予防

二度目以降の感染では症状が軽くなることがあり、年長児や成人ではRSウイルス感染症だと分からないことがあります。

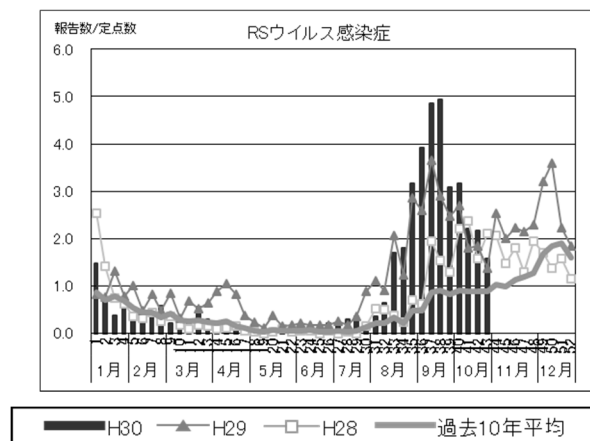
鼻水・咳などの症状がある年長児や成人は、可能な限り乳幼児や高齢者との接触を避けることが必要です。

飛まつ感染対策 流行時期はもちろん、流行時期でなくても、咳などの呼吸器症状がある場合は鼻と口の両方を確実に覆い、正しくマスクを着用しましょう。使用後のマスクは放置せず、すぐにゴミ箱に捨てることも大切です。

接触感染対策 子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石けんによる手洗いかアルコール製剤による手指衛生を行いましょう。



奈良県内のRSウイルス感染症報告状況



(感染症情報センター)